

# つたえる予防ひるば

## 危険物にZoom

### ～ 危険物とは ～

消防法では、火災の危険性が大きい固体や液体を危険物に指定しています。ガソリンや灯油、エタノールなどが代表的ですが、その他身の周りの様々な物の原料などにも幅広く利用されています。

身近な物ほどその危険性には気付きにくいもの。今回はそんな危険物の危険性にズームしていきます。

### ～ ガソリン×静電気 ～



ガソリンは、自動車の燃料として使われるなど、最も身近な危険物の一つです。ガソリンは液体そのものではなく、発生する蒸気が燃焼するという特徴があります。一方、人の体は動けば必ず静電気が発生し、それが蓄積して「バチッ」と放電する時には数千ボルトもの電圧を帯びています。静電気という目に見えないエネルギーが、目に見えない蒸気に引火するのです。セルフスタンドなどでは必ず静電気除去シートに触れてから給油しましょう。



### ～ スプレー×裸火 ～

スプレー缶は噴射剤としてLPGなどの可燃性ガスを使用しているとともに、成分として危険物が含まれているものが存在します。また危険物に該当しなくても、燃えやすい成分が含まれてい



るものがほとんどです。左の写真は防水スプレーを噴射後、ライターを近づけた時の様子です。他にも冷却スプレーや制汗スプレー、虫よけ、塗料等、様々な用途のものがあります。裸火以外にも、直射日光やファンヒーター等、高温となる場所に放置することは大変危険ですので注意しましょう。



### ～ モバイルバッテリー×損傷 ～

モバイルバッテリーに使われているリチウムイオン電池には液体の危険物が入っています。右の写真はモバイルバッテリーに穴をあけたところ、バッテリーが膨張し、ガスを噴き出しながら激しく燃焼している様子です。



バッテリーの落下や折り曲げ、乱暴な取扱いはしないよう注意するとともに膨張や劣化した状態での使用や充電は止めましょう。

### ～ 油火災×水 ～

左の写真は天ぷら油の火災実験の様子です。天ぷら油は危険物には該当しませんが非常に似た特性を持っています。水より軽く混ざらないため、燃焼時に水をかけると炎が一瞬で広がっ



てしまいます。

天ぷら油の火災時には、水をかけず落ち着いてコンロの火を消し、蓋や濡れ布巾等で酸素供給を遮断し窒息消火をしましょう。



## 危険物が救う 災害時の仮貯蔵・仮取扱い

危険物を一定数量以上貯蔵したり取扱うためには許可が必要であり、厳しい条件や制約が課せられます。地震や豪雨等による大規模災害時において、停電時の非常用発電機や緊急車両、災害復興用車両の燃料として、ガソリンや軽油などの需要は多く、災害復旧の初動対応に必要な不可欠なものです。しかし、許可やそれに伴う手続きが必要であるため、すぐに供給量を増やしたり、新たな燃料補給場所を設置することは困難です。そのため、東日本大震災時にはガソリンスタンドに長蛇の列ができ、十分な燃料の補給ができない事態に陥りました。

この問題の解決策として、本組合では大規模災害時に燃料の補給等が必要な官公庁や事業所に対し、危険物の仮貯蔵・仮取扱いの事前計画の受付を開始しました。この制度により、本来危険物の貯蔵等には許可が必要で、手続きにある程度の日数が必要なところを、大規模災害発生時において、事前計画の提出があった事業所等に対し、計画通りの短期的な危険物の貯蔵、取扱いを迅速に認めることができます。詳しくは郡山消防本部予防課危険物係(TEL: 024-923-1850)にご相談ください。